

滋賀の文化情報誌

デュエット

Duet

2019 夏 vol.132

新撰 淡海木間撰 76

アケボノゾウ化石

INFORMATION STATION

催し案内 2019 夏

MYBOOK 自費出版物の紹介

SUNRISE BOOK PRESS

サンライズ出版の新刊案内

特集

多賀町古代ゾウ 発掘プロジェクト 第7次発掘調査



発掘は傾いた地層面によって
行うので、斜面になっている

特集 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト

第7次発掘調査

1993（平成5）年にアケボノゾウの全身骨格化石が発掘された犬上郡多賀町で、多賀町立博物館に事務局を置いて活動している「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト」（共催：アミンチュプロジェクト、協力：滋賀鉱産、滋賀県立琵琶湖博物館）の第7次発掘調査が、2019（平成31）年4月20日（土）～30日（火・祝）に行われました。親子連れなども加わって、化石採集に汗を流した調査の様子をお伝えします。



アケボノゾウ復元骨格と生体復元模型

多賀町立博物館

住所 犬上郡多賀町四手976-2

連絡先 TEL 0749 (48) 2077

休館日 月曜日、毎月第3日曜日・最終木曜日、祝日（第3日曜日を
除く日曜日と重なる場合は開館）、年末年始（12/29～1/4）

入館料 16歳以上200円（中学生までは無料）

アクセス 近江鉄道「多賀大社前駅」下車、徒歩約25分／JR琵琶湖
線「彦根駅」下車、近江鉄道バスで「あけぼのパーク多賀」
下車／名神高速道路「彦根IC」から国道306号で約10分
／「湖東三山スマートIC」から国道307号で約12分





大昔どんな自然環境だったかは、皆さん一人ひとりが
採集する化石、それらが一つひとつ積み重なって
証明されていきます。

多賀町立博物館館長
多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト団長

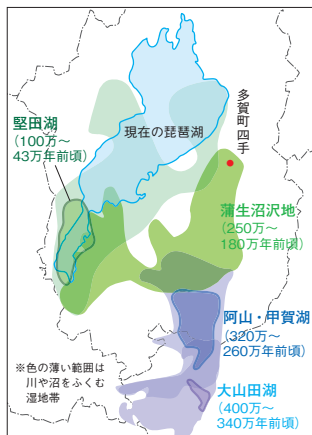
小早川隆さん

空白域とされていた180万〜190万年前の地層

下に示した図は、かつての琵琶湖の範囲を時代順に描いたものです。だいたい400万年ぐらい前には、現在の三重県にあたる場所に大山田湖がありました。それが阿山・甲賀湖、蒲生沼沢地、堅田湖という順で、だんだん北に移動してきたとされています。

私たちの発掘プロジェクトで調査する多賀町四手の最も下部には四手火山灰の層が出てきています。四手火山灰層はその中に含まれる鉱物を調べることによって、180万〜190万年前の火山灰であることがわかりました。また、調査地より上の地層からは、175万年前の富之尾火山灰が見つかっていますから、この2つの火山灰層の間、約10万年ぐらいの間を発掘していることになりました。じつはこの時代は、他の名前のついた湖の時代に比べて魚や貝や植物の化石というものがあまり出てきていない謎の時代、いわば空白域とされてきました。

例えば、ワニは200万年前の日野町の辺りにいたことはわかっていました。それ



より新しい時代では見つかったいなかったのですが、多賀町のことでワニの化石が3つ発見されたことによって、180万〜190万年前にも棲息していたことがわかりました。10万年ほどワニの生息年代が若返ったんです。ワニはその次の堅田湖の時代には絶滅したとされています。ここで発見された化石から、魚や貝でも興味深いことがわかってきています。

もっと大きく湖全体のことという、最初の大山田湖、次の阿山・甲賀湖は温暖な時代の比較的深い湖でした。現在の琵琶湖の一つ前の堅田湖の地層からはセタシジミの化石も見つかり、琵琶湖と似た生物相だったことなどが比較的くわしくわかって

アケボノゾウの発見

プロジェクト名には「古代ゾウ」とついています。なかなかゾウ化石のように大きなものは出てきていません。ここから東へ少し歩いた場所で見つかったアケボノゾウの全身



約180万年前の多賀町周辺の復元図。四手の辺りには内湖があり、大きな湖につながっていた。この時代の粘土層からは、淡水にすむカラスガイなどの貝や、ヒシの化石などが多数見つかる

います。ところが、その間の時代は干上がったしまったのか、同じような深い湖があったのかが長らく謎でした。それが多賀町での発掘成果などから比較的浅い湖や沼などの湿地帯が広がっていたらしいということが、かなり確実にわかりつつあります。

その時代の多賀町四手辺りの姿を復元したのが、右の図です。今の西の湖のように、向こうの広い湖と入江のように水路でつながったあまり深くない内湖(沼)が広がっていたようです。この内湖は、流れ込む川からの堆積物がどんどん溜っていつて、最終的には埋まってしまったということが地層の積み重なりからわかります。

どんな動物がいたのか、どんな植物が茂っていたのか、どのような自然環境だったのか。そうしたことは、皆さん一人ひとりが採集する化石、それらが一つひとつ積み重なって、証明されていきます。ですから、非常に重要な調査を皆さんは担っていることになります。

骨格化石について簡単にお話しします。

1989(平成元)年に私や事務局長の但馬達雄さんをふくむ県内の小学校・高校教員が堆積環境研究会という小さなグルー



プロフィール

こばやかわ・たかし／1948年、滋賀県生まれ。2009年より多賀町立博物館館長。



アケボノゾウ全身骨格化石発掘場所の現在のようす

その発見から20年目の2013（平成25）年に、私たちは多賀町古代ゾウ発掘プロジェクトを立ち上げました。20年前と同じように滋賀鉱産様のご協力・ご支援を受けて現在地の発掘を続けているところです。

掘調査団を結成して発掘調査を進め、アケボノゾウの体の7／8割の骨化石を掘り出すことができました。

それを進めていた住友大阪セメント（現、滋賀鉱産）様に、貴重なゾウ化石が埋まっている可能性について説明し、発掘の許可をいただきました。多賀町教育委員会は発掘調査団を結成して発掘調査を進め、アケボノゾウの体の7／8割の骨化石を掘り出すことができました。

それを進めていた住友大阪セメント（現、滋賀鉱産）様に、貴重なゾウ化石が埋まっている可能性について説明し、発掘の許可をいただきました。多賀町教育委員会は発掘調査団を結成して発掘調査を進め、アケボノゾウの体の7／8割の骨化石を掘り出すことができました。

そこで貝の化石やシカの化石に続いて、1993（平成5）年3月にアケボノゾウの全身骨格が見つかりました。その発見場所がこの発掘地から南東に100mほど行ったところです。そこは工業団地造成工事にもない排水路が建設された所で、掘り下げた深さ約4mほどの粘土層の下から骨盤の一部が見つかりました。さらに、粘土層の壁からゾウの牙が露出していることに気がついた方々によって、長さ2mもある牙一本が掘り出されました。その後も周辺から次々と牙や骨が見つかり、ゾウ1頭分の骨が埋もれている期待が高まりました。

そこで貝の化石やシカの化石に続いて、1993（平成5）年3月にアケボノゾウの全身骨格が見つかりました。その発見場所がこの発掘地から南東に100mほど行ったところです。そこは工業団地造成工事にもない排水路が建設された所で、掘り下げた深さ約4mほどの粘土層の下から骨盤の一部が見つかりました。さらに、粘土層の壁からゾウの牙が露出していることに気がついた方々によって、長さ2mもある牙一本が掘り出されました。その後も周辺から次々と牙や骨が見つかり、ゾウ1頭分の骨が埋もれている期待が高まりました。

そこで貝の化石やシカの化石に続いて、1993（平成5）年3月にアケボノゾウの全身骨格が見つかりました。その発見場所がこの発掘地から南東に100mほど行ったところです。そこは工業団地造成工事にもない排水路が建設された所で、掘り下げた深さ約4mほどの粘土層の下から骨盤の一部が見つかりました。さらに、粘土層の壁からゾウの牙が露出していることに気がついた方々によって、長さ2mもある牙一本が掘り出されました。その後も周辺から次々と牙や骨が見つかり、ゾウ1頭分の骨が埋もれている期待が高まりました。

そこで貝の化石やシカの化石に続いて、1993（平成5）年3月にアケボノゾウの全身骨格が見つかりました。その発見場所がこの発掘地から南東に100mほど行ったところです。そこは工業団地造成工事にもない排水路が建設された所で、掘り下げた深さ約4mほどの粘土層の下から骨盤の一部が見つかりました。さらに、粘土層の壁からゾウの牙が露出していることに気がついた方々によって、長さ2mもある牙一本が掘り出されました。その後も周辺から次々と牙や骨が見つかり、ゾウ1頭分の骨が埋もれている期待が高まりました。

そこで貝の化石やシカの化石に続いて、1993（平成5）年3月にアケボノゾウの全身骨格が見つかりました。その発見場所がこの発掘地から南東に100mほど行ったところです。そこは工業団地造成工事にもない排水路が建設された所で、掘り下げた深さ約4mほどの粘土層の下から骨盤の一部が見つかりました。さらに、粘土層の壁からゾウの牙が露出していることに気がついた方々によって、長さ2mもある牙一本が掘り出されました。その後も周辺から次々と牙や骨が見つかり、ゾウ1頭分の骨が埋もれている期待が高まりました。

そこで貝の化石やシカの化石に続いて、1993（平成5）年3月にアケボノゾウの全身骨格が見つかりました。その発見場所がこの発掘地から南東に100mほど行ったところです。そこは工業団地造成工事にもない排水路が建設された所で、掘り下げた深さ約4mほどの粘土層の下から骨盤の一部が見つかりました。さらに、粘土層の壁からゾウの牙が露出していることに気がついた方々によって、長さ2mもある牙一本が掘り出されました。その後も周辺から次々と牙や骨が見つかり、ゾウ1頭分の骨が埋もれている期待が高まりました。

そこで貝の化石やシカの化石に続いて、1993（平成5）年3月にアケボノゾウの全身骨格が見つかりました。その発見場所がこの発掘地から南東に100mほど行ったところです。そこは工業団地造成工事にもない排水路が建設された所で、掘り下げた深さ約4mほどの粘土層の下から骨盤の一部が見つかりました。さらに、粘土層の壁からゾウの牙が露出していることに気がついた方々によって、長さ2mもある牙一本が掘り出されました。その後も周辺から次々と牙や骨が見つかり、ゾウ1頭分の骨が埋もれている期待が高まりました。

発掘現場でお話を聞きました②

昆虫の翅^{はね}が出ると
キラッと光って
気持ちがいいですよ。

多賀町古代ソウ発掘
プロジェクト事務局長

但馬達雄さん



プロフィール

たじま・たつお／1949年、滋賀
県生まれ。2013年より事務
局長として発掘にたずさわる。

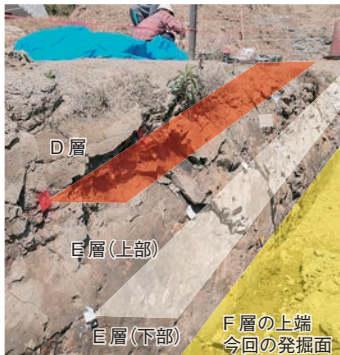
今年も発掘地の草刈りから準備を始め、重機でガーツと掘っていたきました。例年ですと雪解け水がついて粘土が湿っていて掘りやすいのですが、今年はこの辺も雪が降らず、長く晴天が続いたので土が白くなっています。

先ほど小早川団長が説明したように、発掘場所の隣りに見えている四手火山灰層は、発掘場所よりも下に当たる（古い）地層で、アケボノゾウの化石はこの火山灰層よりも少し上の地層で見つかりました。

地層はたまった順番に水平に並んでいれば楽なのですが、鈴鹿山脈側に通っている断層が数千年に一度ガツと盛り上がる活動

をくり返すので、水平だった地層も傾いてきます。

そのため、同じ時代の層を順番に掘っていくと、このように片方が深い斜面になります。上から順にA、B、C、Dと名前をつけており、貼っている赤いマークはE層上



[上] 調査地そばに露出している四手火山灰層
[下] 同じ地層面であることを示す印が壁と杭に貼ってある

部の上限、白いマークはE層下部の上限、黄色いマークはF層の上限にあたります。化石は「どこから見つかったか」が重要なので、4mの等間隔で立っている杭は水平的な位置の基準点を示し、そこからX軸、Y軸方向に何cmと測ります。また別の杭には掘った空間で同じ地層面を見通せるように色つきのマークがついています。基準面から下に何cmと記録していきます。

小さな子どもたちの中には、粘土を割るのが楽しくて、割るだけで終わってしまう子もいますが、割った面に何かないか必ず確認が必要です。今日みたいな晴天の日は、昆虫の翅が出るとキラッと光って気持ちがいいですよ。

最近はSNSというのが発達して、スマートフォンなどをお持ちですと、その場で写真を撮って「ワニが出てきた!」とつぶやかれたりすることもあるわけですが、そうした行為はひかえてもらっています。出た化石は専門家も目を通して、ある程度まとまった段階で発表させていただく予定です。

発掘現場でお話を聞きました③

1カ所だけ深く深く
掘ってはいけません。

多賀町立博物館学芸員

糸本夏実さん



プロフィール

いもと・なつみ／1992年、
大阪府生まれ。2017年より
多賀町立博物館に勤務。

どんな化石が見つかったかということと同じくらい、どこから見つかったかという情報も大切です。特に化石が含まれている地層やその深さは時代や時期を知る重要な情報です。正確に記録できるように、発掘するにあたって気をつけてもらっていたに

いていることがいくつかあります。

地層の境界を示す黄色い印が壁や杭に付いています。皆さんが立っている面がちょうど境界にあたり、足元の黄色い印よりも下の部分を「F層」と呼んでいます。今日はそのF層を掘っていただいています。

同じF層でも、深いところと浅いとこ

ろでは時代の違いがあるかもしれないので、斜面のまま平らになるように、1カ所だけ深く深く掘り進むようなことはしないように気をつけています。むしろ、ここが出っ張っているなど感じる部分からかたづけていただくと、同じ時期にたまった地層を全員で同時に掘ることができると思います。

また、地面にころがっている土の塊（粘土）がありますが、これを蹴ったりすると全然違う時代のところに混ざってしまう可能性があります。地面の粘土はなるべく動かさないように注意しています。

化石発掘調査の手順

作業は、ツルハシなどで地面を割って、できた塊を、皆さんがさらに細かく砕いていきます。

ツルハシは事務局の者が使いますが、皆

さんもハンマーや千枚通し、ドライバーなど、いろいろな道具を使いますので、ケガをしないように、周りの人にもケガをさせないように気をつける必要があります。



参加者の服装
(モデル：田中一茂さん)

その他の持ち物
帽子(休憩時用)
健康保険証
各自保険のコピー
雨具(カッパ)
筆記用具・記録ノート
あれば虫メガネもしくはルーペ

↓調査団で借りることができる道具類
スコップ、移植ゴテ、ねじり鎌、小型ツルハシ、千枚通し、ドライバー、スプーン、刷毛、水糸、画板、箕、一輪車など



- 1 調査団スタッフが、発掘地の表面をツルハシで碎き、小さな粘土の塊にする
- 2 ハンマーとドライバーでさらに小さく割る
- 3 小石くらいの塊を、千枚通しでさらに薄く割る
- 4 割れた面に化石がないかを見る
- 5 化石らしいものがあれば、ルーペで拡大して見る
- 6 何も見つからなかった塊は、決まった置き場に運ぶ
- 7 ヒシの実の化石らしきもの
- 8 化石が出た粘土の位置を記録してもらう
- 9 化石はタッパーに入れてアルコールをかける
- 10 番号をつけ、ブルーシートの下に保管していく



10



9



8



7



1



2



3



4



5



6



これまでの
成果について

じつは7年も
続けられるとは思って
いなかったんです。

— それでは、お三方に第1次からの発掘
を振り返っていただきたいと思います。

小早川 第1次発掘は、町をあげて大々的
にオープンングイベントなどもやったんで
すよ。前日には町役場で結団式をして。

糸本 「野洲のおっさん」（びわ湖放送の番組
キャラクター）と「たがゆいちゃん」（多賀
町マスコットキャラクター）も来てくれました。

小早川 最初はそれまで化石などになじみ
のなかった町民の方に学んでもらう場とし
て、学習会も頻繁に開催しました。

第1次発掘を始める前に試掘したところ、
シカの手骨ちゅうしつこが見つかり、プロジェクトへ
の期待が高まりました。実際、1次発掘で
も次々シカの骨が見つかり盛り上がりまし
た。目標は2頭目のアケボノゾウですが、
以前もシカの発見に続いて見つかりまし
たので今後に期待もっています。

— 翌年の第2次発掘はいかがでしたか。

但馬 2次から重機を入れて、地形が斜め
での発掘になりました。今回（7次）のよ
うにそれぞれの地層面を把握して、それ
にあわせて掘るようになったのは、次の第3
次発掘からです。事前に掘り方の説明をし
て、基準面を設けて、丁寧な掘り方になっ
たと思います。

— その第3次発掘は、15日間にわたり、
のべ人数200人※1、規模的には最大ですね。

小早川 この時は雪が降って大変でした。
3月13日に大雪が降って、翌14日の初日は
雪かきから始まったんです（苦笑）。

— 今年は雪がなくて乾燥していたそうです
が、湿っていた方が掘りやすいんですか？

※1 発掘調査団は、以下で構成されている。

はしかけ古琵琶湖発掘調査隊 滋賀県立琵琶湖博物館の自主活動グ
ループ「はしかけ」のメンバー。

多賀町発掘お助け隊 第5次発掘から、多賀町民で構成された「多
賀町発掘隊」と町外から募集した発掘ボランティア「発掘お助
け隊」があわせて活動。

専門班 滋賀県立琵琶湖博物館学芸員ほかの専門的知識をもつ方々。

事務局 多賀町教育委員会生涯学習課、多賀町立博物館、アミンチュ
プロジェクト。

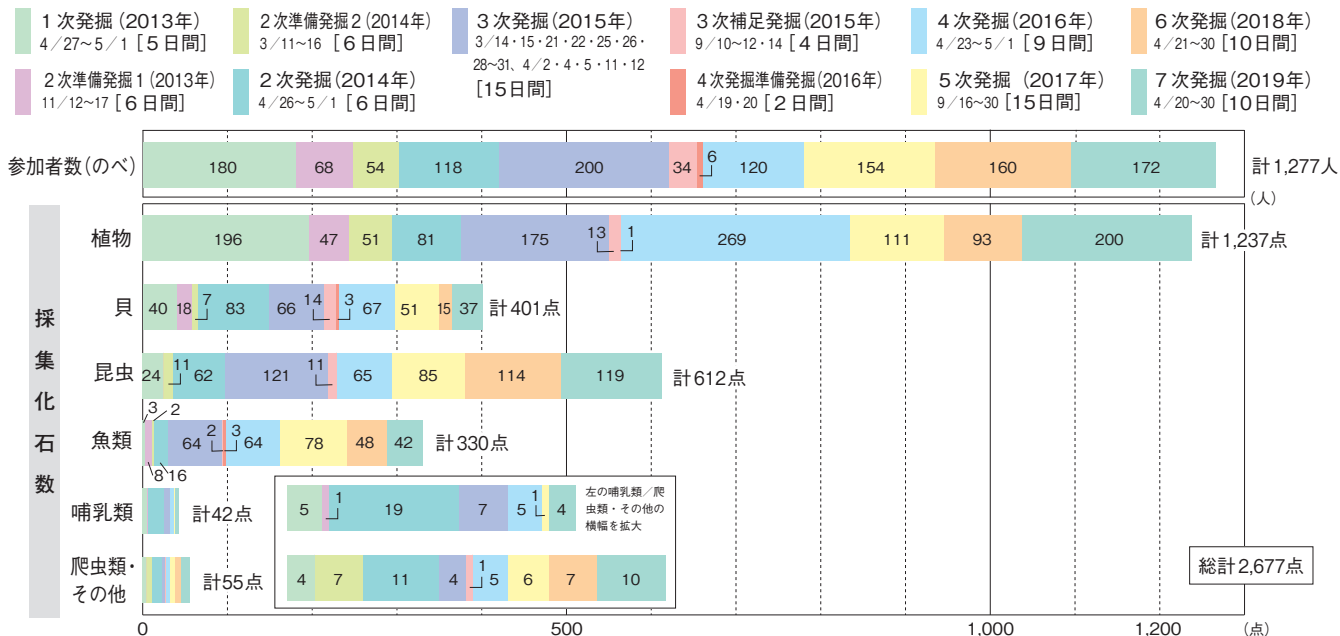


→第1次開会式のような
（2013年4月27日）

←第4次発掘現場での学
習会のような（2016
年4月24日）
ともに発掘プロジェ
クト事務局提供



多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト1次発掘から7次発掘までの参加者数と採集化石数の集計（事務局提供のデータをもとに作成）



小早川 カチカチよりは湿ってる方が掘りやすいですね。粘土なので、雨が降ってズルズルになってしまうのも困るのですが。

但馬 7次でも雨が降ってズルズルの日もありました。そういう日は出てきません。

—— **つづいて4次はいかがですか。**

小早川 4次では、2日目の24日にワニの歯が出たんです。琵琶湖博物館の山川千代美さんがポコッと叩いたら出てきたって(笑)。この歯は太短いのでヨウスコウアリゲーターではないかと探ってみました。歯一本だけでは結論を出すに至りませんでした。

この4次までが終わった翌年(2017)3月に報告書『180—190万年前の古環境を探る』を多賀町教育委員会が発行しました。そこで、化石の種類ごとに専門班の研究者が出土化石について考察なさいました。

—— **では、報告書を参考に、まず植物は。**

小早川 ヒシの実がたくさん出ますし、メタセコイヤなどの湿地林にブナのなかまなどが隣接している、これまでの推測と矛盾しない結果が出ているようです。肉眼では見えない花粉やケイ藻も、総合的な環境を考えるために重要なので、発掘現場で粘土を採取して、室内で分析していただいています。

—— **貝についてはいかがでしょう。**

小早川 貝の場合、割れているなど、保存状態が悪いものが多いです。絶えず水があったのではなく、干上がって陸になってしまいうちもある水位変動の激しい当時の環境を示しているのかしれません。そもそも貝が当初の予想よりも少ないんです。

但馬 この四手丘陵を開発している時には、たくさん貝が出る地層があったそうです。距離的にはそう離れていないのですが。

①ヒシの実 ②割れたカラスガイ ③ネクイハムシ属の一種の左上翅 ④コイ属の咽頭歯 ⑤ワニの歯 ⑥シカの骨



—— **つづいて昆虫はいかがでしょう。**

小早川 それまで古琵琶湖層で報告されていた昆虫化石はわずか5例だったそうなので、大幅に化石数は増えました。翅が玉虫色できれいなアオヘリネクイハムシというなかまは、現在日本にはおらず、シベリアからヨーロッパにかけて分布していて、水草(浮葉植物)の葉を食べている虫だそうです。

—— **魚の化石は主に咽頭歯、コイやフナの喉にある歯だそうです。**

小早川 それまで蒲生層で見つかった化石は非常に少なかったのが一気に増えました。

但馬 咽頭歯はクリーニングにとっても時間がかかるので、分析にはまだ時間がかかるみたいですね。

小早川 珍しいものでは、肉食の魚の尖った歯らしきものも見つかっています。

—— **哺乳類ではシカが見つかっていますね。**

小早川 哺乳類はすべてシカのように、また同じ部位の骨がほとんど出ていないことから、見つかった化石はせいぜい2頭分ほどの骨が散らばったもののようです。発掘調査地から100m弱しか離れていないアケボノゾウの発見地では、1頭分のシカがバラバラにならず丸ごと出ています。そうした出方の違いは、沼の岸辺と中心部といった環境の違いがあるのかも知れません。

—— **最後に、爬虫類は。**

小早川 先ほどお話しした4次で出たワニの歯以降、5次・6次でもワニの歯が見つ

かり、カメの甲羅も出てきました。

—— **他に発掘調査で印象に残っていることはございますか。**

小早川 発掘隊員には将来、研究者になりたい大阪の高校生や恐竜好きの小学生もいます。父母あるいは祖父母といっしょの小学生の参加もあり、多様な世代が年齢を超えて楽しく発掘が進められてきたことが印象に残っています。

但馬 専門班として琵琶湖博物館の高橋啓一館長をはじめ学芸員の皆さんが来ていただけの体制になっている点も大きいですね。

小早川 琵琶湖博物館は、はしかけグループ「古琵琶湖発掘調査隊」の皆さんの存在も大きいです。それから滋賀県立大学の学生さんには、ケイ藻や花粉の研究に取り組んでいただいています。

じつは最初は3年ぐらいで区切りとするつもりで、7年も続けられるとは思っていませんでした。次々、一般参加者も研究者も新しい人が来るようになって、その力に押されて続けてこられたと感じています。

糸本 毎年募集している「多賀町発掘お助け隊」には、多賀町民以外でもお申し込みいただけます。気軽に参加ください。ピギナーズラックみたいなものもありますよね。5次の時だったか、初めての参加者が、オリエンテーションなどが終わって、ツルハシを振るった瞬間にバカッと骨が出てきたとか。

但馬 でも、それから後は出なくて(笑)。(2019・6・13 多賀町立博物館にて)

アケボノゾウ化石

多賀町立博物館 糸本夏実

今回紹介する資料は、当館のシンボリック存在のアケボノゾウ化石です。この化石は1993（平成5）年に多賀町^{しで}四手にある、びわ湖東部中核工業団地の造成にともなう工事で見つかりました。木々に覆われていた丘陵地が開発されたこと、第一発見者である工事関係者が化石を見逃さなかったことなど、いくつもの偶然が重なって



現在展示室の中で見るができます。この化石の発見がなければ、多賀町古代ゾウ発掘プロジェクトが発足することもなければ、多賀町立博物館が建設されることもなかったのかもしれない。

アケボノゾウはゾウの進化の歴史の中で古い種類だと考えられていたことに由来して、夜明けを意味する名前がつけられたのでしょう。その後、各地で発掘された近縁種の化石と比較した研究から、アケボノゾウは大陸から渡ってきたゾウが日本で進化した種だということがわかりました。「あけぼの」のゾウではなかったようですが、名前にはそのような歴史が隠されています。

全国各地で見つかっているアケボノゾウ化石と比べて、多賀町のは全身の骨がよくそろっている貴重な標本です。工事中に見つかり、大急ぎで発掘したため、その時には詳しい調査ができませんでした。詳細に調査をするべく、アケボノゾウ化石の発掘から20周年を契機に多賀町古代ゾウ発掘プロジェクトが発足しました。その発掘調査では、アケボノゾウと同じ時代を生きた生物たちの化石が多数見つかり、当時の沼や周辺の森の様子が明らかに became きました。

化石は人類が見たことのない遠い昔を探る手掛かりとなります。過去を解く鍵はまだまだ私たちの足元に眠っており、まだ日の目を見ない地中のアケボノゾウたちが掘り起こされるのを待っているのかもしれない。多賀町古代ゾウ発掘プロジェクトの合言葉でもある「2頭目のアケボノゾウ全身化石」はまだ見つかっていないものの、プロジェクトのメンバーたちが諦めずに発掘し続ける原動力となっています。

第31回水族企画展示

ビワマスと仲間たち

7月20日(土)～9月8日(日)

滋賀県立琵琶湖博物館

サクラマスの仲間や湖沼性のサケ科魚類、滋賀県で養殖や放流に使われているサケ科魚類など、ビワマスとその仲間たちを生体展示します。本館の企画展示とあわせてご覧ください。

会場：滋賀県立琵琶湖博物館 水族企画展示室
常設展示観覧料：一般750円、高大生400円、

小中生無料

休館日：8月5日、9月2日

お問い合わせ先：TEL 077 (568) 4811

多賀町立博物館・文化財センター収蔵品展

収蔵品が見た
時代のうつりかわり

7月20日(土)～8月25日(日)

多賀町立博物館



(上) 中世の土製釜・(下) 近世の鉄製釜

夏の企画展は、時代のうつりかわりをテーマに、多賀町立博物館と多賀町立文化財センターの収蔵品を中心に展示します。時代のうつりかわりを見てきた収蔵品の目を通してみると、時代の変化や自然の変化はどのように映るのでしょうか。

会場：あけぼのパーク

観覧料：収蔵品展のみの見学は無料。ただし、常設展示室見学の場合、16歳以上200円

休館日：7月21・22・29日、8月5・12・18・19日

お問い合わせ先：TEL 0749 (48) 2077

休館日：9月2日・9日

■関連博物館講座

第1回「古代・中世の塩津港と地域社会」

7月28日(日) 午後1時30分～3時

講師：水野章二氏(滋賀県立大学)

第2回「発掘された塩津港遺跡」

8月11日(日) 午後1時30分～3時

講師：重田 勉(公益財団法人滋賀県文化財保護協会)

第3回「起請^{きしょうもん}文木札と中世の神々」

9月1日(日) 午後1時30分～3時

講師：濱 修(公益財団法人滋賀県文化財保護協会)

第4回「古代の最重要港湾 塩津港」

9月7日(土) 午後1時30分～3時

講師：横田洋三(公益財団法人滋賀県文化財保護協会)

会場：当館 NPS セミナールーム

定員：各回140名(当日受付午後1時～ 先着順)

参加費：各回200円

お問い合わせ先：TEL 0748 (46) 2424

第27回企画展示

海を忘れたサケ

—ビワマスの謎に迫る—

7月20日(土)～11月24日(日)

滋賀県立琵琶湖博物館



ビワマス

ビワマスは、琵琶湖固有のサケ科魚類です。美味な食材としても知られていますが、その生態は謎に包まれています。

今回の企画展示では、最新の研究成果を基にその謎に迫るとともに、共存に向けた方策について来場者の皆さんと考えてみたいと思います。

会場：滋賀県立琵琶湖博物館 企画展示室

企画展示観覧料：一般300円、高大生240円、小中生150円

休館日：8月5日、9月2日・9～13日・30日、10月7日・21日・28日、11月11日・18日

夏休み特別企画

ようこそ！世界のおもちゃ箱へ

7月18日(木)～8月26日(月)

世界風博物館東近江大風会館



時代やお国柄によっておもちゃは違ってきますが、おもちゃは世界の子どもの宝物です。世界の共通する遊びのコマやけん玉、楽器、そしてお国柄を表すおもちゃなどを展示します。

入館料：一般300円、小中生150円

休館日：水曜日

お問い合わせ先：TEL 0748 (23) 0081

第60回企画展

塩津港遺跡発掘調査成果展

—古代の神社と祭祀を中心に—

7月20日(土)～9月16日(月・祝)

滋賀県立安土城考古博物館



起請文木札(滋賀県教育委員会提供)

琵琶湖の北端に位置する塩津港遺跡は、古代から北陸と近畿を結ぶ湖上交通の拠点となった重要な港の遺跡です。平成18年から平成30年にかけての発掘調査によって、当時の港の実像や人々の信仰と暮らしに迫る貴重な資料が数多くみつかりました。

本展では、調査成果のうち、神社などの信仰や祭祀を中心とした資料を紹介します。
入館料：大人500円、高大生300円、小中生無料



隠し味としての権

竹尾正己人権考「孤楽夢」集

竹尾正己 著／竹尾耕児 編
人権ネットワーク八幡 発行
新書判並製本 総96頁 非売品

問合先 携帯080-2525-7114 (担当：高坂)

建設省を33歳で退職、滋賀県で部落解放運動に身を投じた著者が、その晩年に機関紙に寄稿した連載「孤楽夢」を収録。(2019.4.30刊)



紙芝居 三島池の伝説

みしまいけのはたのおと

絵・脚本 滋賀県立伊吹高等学校美術部
制作 池下地区再発見プロジェクトチーム
265×382mm 総16枚 非売品

問合先 米原市池下516 三山元暎(代表)

米原市池下の三島池に伝わる伝説を子どもたちに知ってもらうため、地元高校の美術部員の手で作成された紙芝居。(2019.6.15)

滋賀近美よもやま講座

月刊学芸員

滋賀県立近代美術館

現在、休館中の滋賀県立近代美術館では、館のコレクションなどをわかりやすく解説する講座を各地で開催しています。

7月20日(土) 午後2時30分～4時

近江八景について

～横山華山「近江八景図」を中心に～

話し手：大原由佳子(県立近代美術館 学芸員)
会場：県立図書館 会議室 定員：40名

8月25日(日) 午後2時30分～4時

ホトケの姿 カミの影

～仏像・神像からみる近江の神仏習合～

講師：和澄浩介(県立近代美術館 学芸員)
会場：コラボしが21 大会議室 定員：150名

9月7日(土) 午後2時30分～4時

美術家たちの舞台

～戦後のアメリカと今日の日本～

講師：渡辺亜由美(県立近代美術館 学芸員)
場所：旧大津公会堂 多目的室 定員：40名

10月26日(土) 午前10時30分～12時

明治・大正期の日本美術と工芸

～滋賀ゆかりの画家を中心に～

話し手：山口真有香(県立近代美術館 主任学芸員)
会場：県立図書館 会議室 定員：40名

●参加料：いずれも無料(要事前申込、先着順)

●お申し込み方法：次のいずれか

インターネット 滋賀県立近代美術館

ホームページの申し込みフォームから

往復はがき お名前・ご住所・電話番号・E-mailアドレス・ご希望の講座名・講座開催日を明記して送付

宛先：滋賀県立近代美術館

〒520-0807 滋賀県大津市松本1-2-1

滋賀県大津合同庁舎5F

●お問い合わせ先：TEL 077 (522) 2111

夏季特別展

水谷コレクションで見る 近江の古代瓦

8月4日(日)～9月1日(日)
愛荘町立歴史文化博物館



指頭庄文帝 四重弧文軒平瓦

水谷隆信(1906～1995)は愛知県出身ですが、縁あって滋賀県で僧職を務め、そのかたわら、滋賀県や京都府の遺跡を訪れて遺物の収集を行いました。それらの収集品「水谷コレクション」は、滋賀県ミュージアム活性化推進委員会の『地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業』による地域文化財の保全公開事業』の調査により、考古学的に重要な資料であることがわかりました。

本展では、大津市の崇福寺跡や愛荘町の塔ノ塚廃寺といった湖南・湖東地域の古代寺院の瓦を中心に紹介します。

入館料：一般300円、小中生150円

※8月11日・12日は無料入館日

休館日：月・火曜日(祝日は開館)

お問い合わせ先：TEL 0749 (37) 4500

地域連携企画展

歴代天皇と近江

—滋賀県立琵琶湖文化館 館藏品より—

7月27日(土)～9月29日(日)

甲賀市土山歴史民俗資料館



靈元天皇 御眼鏡

紫香楽宮跡や斎王垂水頃宮跡など、天皇家と関わりが深い史跡の残る甲賀市で、琵琶湖文化館が所蔵する天皇家ゆかりの品々を一堂に展覧します。

近江大津宮や紫香楽宮の関係遺跡から出土した考古資料をはじめ、戦国期から近代にかけて天皇や皇族が描いた絵画や書跡(宸翰)、宮廷画人らによる絵画、昭和天皇に帝王学を進講した滋賀県出身の教育者・杉浦重剛の遺品や書など、これまでまとめて展示公開されることがなかった品々です。

入館料：無料

休館日：月曜日、火曜日

■ギャラリートーク

7月27日(土)・8月24日(土)

いずれも午後1時30分～2時30分

講師：井上 優(滋賀県立琵琶湖文化館主幹)

会場：甲賀市土山町歴史民俗資料館 第2展示室

参加費：無料(申込不要)

お問い合わせ先：滋賀県立琵琶湖文化館

TEL 077 (522) 8179

おうみ
淡海文庫 63
明智光秀と近江・丹波
分国支配から「本能寺の変」へ

福島克彦 著
B6判並製本 総188頁 1500円＋税
信長を倒した光秀はどのような人物だったのか。近江・丹波において交わされた手紙などから、謎に包まれた人物像に迫る。



信仰と建築の冒険
ヴォーリズと共鳴者たちの軌跡

吉田与志也 著
四六判上製本 総456頁 2800円＋税
W.M.ヴォーリズの右腕だった吉田悦蔵が遺した資料をひもとき、彼らが興したキリスト教伝道団の劇的ともいえる草創期から発展期の活動・交流を未発表エピソードとともに綴る。



マントン便り

藤本愛子 著
B6変形並製本 総162頁 非売品
問合先 神戸市兵庫区新開地6丁目3-22-1210(著者)
国際結婚した娘一家の生活を綴った『シャロン便り』(2000年刊)の続編。転勤により南仏の地中海に面した港町マントンに移り住んだ娘一家の暮らしぶりを記す。(2019.3.17刊)



たまぎわ
球際の執念 球心一致の足跡

高畑 敏 著
四六判並製本 総192頁 非売品
問合先 米原市本郷339(著者)
素人ながら赴任した伊吹山中学校の卓球部を男女とも県大会優勝に導き、全国大会の常連校へと育て上げた著者が、後の高校野球部顧問時代のふくめ、教員生活を振り返る。(2019.4.22刊)



近江の山城を歩く

中井均 編著
A5判並製本 総304頁 2200円＋税
『近江の山城ベスト50を歩く』(2006年刊)以降の新たな知見などを踏まえ、合計70の山城について概要と縄張図を掲載。城の位置図、城跡へのアクセス図を付けた城探訪必携の書。



米原市自然研究の歩み
つないだ坂道越えれば向こうは日本晴れ

くもで
口分田政博 著
四六判並製本 総212頁 1600円＋税
米原市の三島池のマガモや天野川のゲンジボタル、山室湿原の植物など、自らの自然研究・保護の歩みを紹介しながら90年の人生を振り返り、次世代へ伝えたいメッセージを記す。



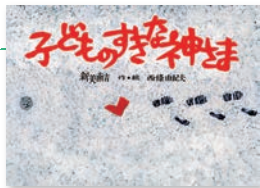
滋賀の平成年表 1989-2019

サンライズ出版 編／京都新聞社 協力
A5判並製本 総72頁 1000円＋税
令和元年に振り返る滋賀の平成30年間。見開きを1年として、滋賀県、国内外の出来事をまとめ、時系列で流れを追いやすい構成。行政・教育・メディア関係者など必携の現代史年表。



子どものすきな神さま

新美南吉 作／西條由紀夫 絵
B5横上製本 総24頁 1300円＋税
雪の降った翌日、子どもたちと遊ぶうと野っぱらにやってきた神さまは、調子によってうっかりと顔を雪にうつしてしまった。さあ大変……。第2回安城市新美南吉絵本大賞(おとなの部)優秀賞受賞画家が絵本化。



表紙写真 第7次発掘調査初日のようす (2019年4月20日)

編集後記 これまで7次にわたる発掘で見つかった化石の総計は、のべ参加人数の約2倍、植物化石数はのべ参加人数とほぼ同数なので、1日参加すると、1人あたり植物化石1点と他の化石1点が見つかるのが標準的な成果のようです(7ページのグラフ参照)。私が見つけたのも、炭化木材と昆虫の翅の2点でした。4月にしてはありえない暑さの日だったので、帰りの車の中で顔がヒリヒリしてきて、日焼け止めを塗ってこなかったことを後悔しました。㊥

Duetの定期購読をご希望の方は、下記までお申し込みください。

〒522-0004 滋賀県彦根市鳥居本町655-1
サンライズ出版株式会社 Duet 編集部
TEL (0749) 22-0627 FAX (0749) 23-7720
(振替) 01080-9-61946

インターネットでDuetがお楽しみいただけます。
<http://www.sunrise-pub.co.jp/>

お申込先